

委員会報告

桜川市議会議員は、全議員がいずれかの常任委員会に所属し、それぞれ掲げたテーマについて審査しています。このページでは、その審査内容や各委員会の活動状況を報告します。



今号は 建設経済常任委員会に注目

私たちが
委員です



中川泰幸委員長 岩見正純副委員長 上野征一委員 塚本 明委員 仙波信綱委員 増田俊夫委員 皆川光吉委員

建設経済常任委員会では、4つの所管（経済部・建設部・上下水道部・農業委員会）に属する事項を調査・審査します。

重要伝統的建造物群保存地区とまちづくり

視察日 平成21年5月20日(水)～22日(金)
視察先 山形県米沢市、秋田県仙北市

仙北市角館町は、重要伝統的建造物群保存地区内のまちづくりを進め、保存地区の歴史的価値を守り、高めることに努め、建造物と樹木が織りなす格調高い雰囲気、気風を育て、風格のあるまちを維持しています。この歴史的な町並みを良好な形で保存し、後世に継承するため、年次計画による重要伝統的建造物群保存地区保存整備事業(国庫補助事業)で、保存地区内の防災計画、樹木管理計画、景観形成ガイドラインの策定や情報案内標識等の整備を行うとともに、屋敷割や樹形の復元も考えているとのことでした。

現在、まちづくりのため、「重要伝統的建造物群保存地区の町並みを守る会」では、地域住民の意見の集約を基本として、適切な役割分担のもとに保存地区のあらゆる問題に総合的に取り組み、住民関係団体と行政が一体となつて活動できる組織づくりが進められています。

桜川市においても、平成二十一年に真壁町の伝統的建造物群保存地区選定に向けて取り組んでおり、未来に続く歴史的町並みを伝えるとともに、市民が愛着と誇りを持つ個性を生かしたまちづくりを、保存地区の人たちとよく検討し、理解を得ながら進めるよう要望します。



委員会報告は、シリーズで毎号順番に1つの委員会を大きく取り上げて紹介します。

職員の人材育成

総務常任委員会

委員長 大塚秀喜
委員 増田 昇・橋本位知朗・鈴木好史・増田 豊

視察日 平成21年4月22日(水)～24日(金)
視察先 秋田県仙北市、宮城県加美町
(文教常任委員会と合同)

加美町は、人材育成方針として①意欲と能力を高める職員研修②能力を高め発揮できる職場環境③意欲と能力を引き出す人事管理を掲げています。

平成十六年に定員適正化計画を策定し、定員管理を進めています。が、職員の減少による業務量の拡大等があり、組織面からの対応が必要とのことでした。また、組織の再編では、指定管理者への移行や施設の統廃合を進めています。が、十分な進捗状況ではないとのことでした。

今後、住民サービスを維持していくため、職員個々の意識改革による「組織力の向上」と、昇給・昇任・昇格等に対する



桜川市も平成二十年より人事評価制度を試行していますが、行政本来の目的である「市民サービスの向上」のためにも制度の構築が必要と思われる。

子育て支援事業

福祉環境常任委員会

委員長 萩原 實 副委員長 風野和視
委員 林 悦子・横田 衛・川那子秀雄・高田重雄

視察日 平成21年5月21日(木)～22日(金)
視察先 神奈川県南足柄市、静岡県伊豆の国市

南足柄市子どもセンターは、市民がレクリエーションや、講座など自由な時間を過ごすことができる総合施設です。センター内に開設している「子育て支援センター」は、相談室での来所相談やフリースペースで子どもを遊ばせながら親の息抜きや情報交換の場を提供するなど、気軽に交流できる環境になっています。開設以来、利用者が年々増加し、平成十九年度には二カ所目のセンターを開設して、利用者の要望にこたえているとのことでした。

また、「ファミリーサポートセンター」は、地域の人が共に関わり、援助



なつて互いに助け合う組織です。学校などへの送迎、その前後の預かり、臨時外出時の預かりなどの育児の援助活動を行っています。これまでの保育体制では対応できない部分をカバーするもので、桜川市における子育て支援事業を進める上で大変参考となるものでした。

多目的複合施設の利活用

文教常任委員会

委員長 小高友徳 副委員長 古川静子
委員 菊池節子・小林正紀・相田一良・潮田新正

視察日 平成21年4月22日(水)～24日(金)
視察先 秋田県仙北市、宮城県加美町
(総務常任委員会と合同)

加美町の「やくらい文化センター」は、平成十六年三月に完成した延床面積六、〇七二平方メートル、総事業費約三〇億円の多目的複合施設です。

施設は三つに区分され、ホールゾーンのホールは、従来は定期的な公演等に利用していましたが、今後は住民参加型の催事を中心に目指していくとのことでした。

公民館ゾーンは、和室、大小会議室、創作・研修室、オープンギャラリイ等を備え、スペース確保のため壁収納型パネル設置など空間の有効利用が見られました。図書ゾーンは、蔵書数が約七万冊、その他視



聴覚資料も有し、蔵書の特徴として、技術・産業芸術関係書の充実を図るよう本の購入に努めているとのことでした。

桜川市においても(仮称)桜川市多目的複合施設の着工が間近となりましたが、市民や来訪者に市の魅力を発信する施設となるよう、利活用の面でさらに検討を進めるとともに、魅力あるまちづくりの構築が望まれます。